

リフトがない時代のスキーの中心地

三角山のスキーゲレンデ

古くから多くの市民に親しまれていた三角山周辺のスキーゲレンデを紹介します。

宮の森の三角山東斜面・なまこ山・馬場牧場の一帯（現在の三角山小学校や宮の森三角山公園、宮の森病院周辺）は、明治四十一年（一九〇八年）に札幌にスキーが伝えられたころから昭和四十年代後半まで多くの市民でにぎわったゲレンデです。

なまこ山は東側にあつた馬場牧場が所有する山で、馬場山ともいい、牧場とともにスキーヤーに開放されてきました。

文化通といわれた西区との境の道路を登り詰めたなまこ山の西側には、宮本さんという人の農地を利用したゲレンデがあり、「宮本スロープ」と呼ばれて学校のスキー授業も行われ、スキー客相手の売店もありました。

三角山東斜面では昭和四年に荒井山の札幌記念シヤンツェができるまでジャンプ競技も盛んでした。

山頂からの急斜面を利用してアルペンスキーも行われ、十五年の札幌五輪（中止）では回転の会場に予定されていました。三十九年からはリユージュの練習コースも造られました。

スキーばかりでなく山菜取りなど豊かな自然に市民が親しんだこれらのゲレンデは、市の発展とともに宅地化が進み、当時の姿は残っていません。

（平成七年二月号・第十九回）



スキーヤーでにぎわう宮本スロープと
なまこ山（昭和42年）